

会派視察・研修報告書

会派名 公明党
代表者名 寺島 芳枝

1 日 ち	令和 5 年 7 月 6 日(木) 10:00~12:30
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	学校法人西濃学園中学校 岐阜県揖斐郡揖斐川町東横山 1070
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	「不登校特例校の研究・視察」
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 北浦茂理事長との懇談 ② 学園内の視察 ③ 自校給食の試食
6 所感、提言事項、課題等	<p>【寺島芳枝】</p> <p>① 北浦学園長は公立高校の教師時の 1991 年より、不登校支援のボランティア活動(大垣市)からスタート。3 年後からサマースクールを始め 10 年以上の活動を継続。2003 年より揖斐高原スキー場のクラブハウスにて宿泊型フリースクールを開校。翌年に NPO 法人を経て 2008 年に学校法人に。名前も坂内新生塾→坂内新生学園→西濃学園(中学校・高等学校)へと進化しながら 20 年以上に渡り不登校の子ども達、親御さんとともに子ども達の笑顔を取り戻すための活動を続けられてきました。地域の皆さんとの繋がりを大切にしながら、そのエピソード(銭湯での地域の方との触れ合い、お祭りへの参加等)を伺いながらご苦労が垣間見えると共に人との繋がりが子ども達の力になっていることに感動しました。臨床心理士を 3 名採用していることへの驚きと生徒を理解しようとする熱意の凄さを感じました。</p> <p>② すれ違う生徒達の挨拶は気持ちが良い。当日は清掃のプロに教わるガラス拭きが行われていました。脚立を支える役目の生徒、脚立に跨がり拭く生徒は、一生懸命でした。社会人先生の実技に私達も釘付けでした。 校舎 2 階の教室が仕切られ各々の部屋があり、皆が集まりくつろげる部屋も完備されていました。</p> <p>③ 3 食を食べる食堂は 1 階。今夜のメニューが書かれていました。手作りで美味しい給食は家庭の味、お母さんの味ですね。</p> <p>課題 私立である為、財政的な苦労がついて回る。これ以上授業料は上げられないとの葛藤の中での運営。高校の授業料無償化により保護者負担は軽減されたが義務教育である中学生へも何らかの支援が必要である。空き校舎の活用をしているが、老朽化への懸念がある。企業版ふるさと納</p>

税の活用など資金集めも必要ではないか。県内公立学校とのノウハウの共有や、横の繋がりの中で学びあっていく仕組み作りに尽力されているが、行政による積極的な関わりを期待する。多治見市の不登校児童への対応に是非学んで頂きたいと思う。学校へ行くことが目的ではない、ご飯を食べ生きていく事ができる、自立が出来ること、幸せになる事が目的であること改めて感じる事ができました。

【片山竜美】

・西濃学校は、現在の理事長である北浦茂先生が、「学校に行きたくてもいけない子どもたち」の支援を目的としたボランティア団体を立ち上げ、やがて、フリースクールそして、学校法人にまでに成長させた、まさに手作りの私立学校で、2017年より文科省から中学校が「不登校特例校」の指定を受け、2021年には高等学校を設立するまでになりました。

・ほとんどが寮生で、先生方も24時間子どもたちと対峙しています。また、臨床心理士も3名配置しており、定期的なカウンセリングで、心のケアもしっかりと行っています。

・夏山登山や劇団四季の観劇を年間行事に組み込み、心も体も感性もしっかりと育てるための環境を整えていると感じました。

・地域の方の理解を得ながら、地域の方との交流をし、巻き込みながら、いろんな大人と接する中で、子どもたちを育てる環境も整えられていました。

・ここまでくるのは、決して簡単でなく、様々な苦勞や努力をされてきたことも伺いました。

・北浦理事長との懇談の中で、ここまでできたのは、「子どもたちのために何とかしたい」という熱い思いと、先生の人柄から集まってくる人脈、人とのつながりがあったからであると感じました。

・「子どもたちのため」に設立された、こういった学校がもっと注目され、評価され、支援されるべきであるとの思いを強くしました。

・この日は、校内の大掃除を行っており、子どもたちは、窓の磨き方などを学びながら一生懸命取り組んでいました。この子たちが、一般の公立学校ではいわゆる「不登校生」であるとはとても思えない姿でした。

・自校給食も試食させていただきました。やっぱり自前で作る給食は、温かくておいしいです。この日のメインは「マーボー豆腐丼」でした。

・最後に行政、教育関係者をはじめ、いろんな人が見るべきと感じました。「こどもたちのため」の視点に立って、少しでもよりよい教育環境をつくるため、今日学んだことを少しでも生かせるよう自分なりに頑張っ参ります。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。